

神奈川県の学童保育



神奈川県学童保育連絡協議会

第47回定期総会を開催

去る2021年6月26日(日)、横浜市健康福祉総合センターにて「神奈川県学童保育連絡協議会第47回定期総会」を開催しました。県内の地域学童保育連絡協議会の代表、個人会員等が参加し、進められました。

今回もコロナ禍での開催のため、会場参加(来賓含め16人)とリモートによる参加(20人)の併用での開催となり計36人が参加しました。

会長あいさつの後、来賓として県次世代育成課課長後明ともみ様より挨拶がありました。

また、「神奈川県の学童保育を支える議員連盟」会長小川久仁子様よりメッセージが寄せられ紹介されました。

その後議長に大和市連協の弓削田さんを選出し議事に入りました。議事内容は以下の通り。

情勢報告 【報告者 小神】
 2021年度活動報告 【報告者 小神】
 2021年度決算 【報告者 池谷】
 監査報告 【監査報告 小保方】
 質疑 質問・意見なし
 採決 承認
 2022年度活動方針【提案者 小神】
 2022年度予算案 【提案者 池谷】
 質疑 質問1件(書籍販売について)
 他の意見なし

採決 承認
 規約等改正案 【提案者 小神】
 採決 承認
 尚、運営委員として10の地域から25人(個人含)が確認されました。
 今年度役員は新人2名を含め以下の通り選出されました。

会長：小神長次
 副会長：飛鳥井裕貴、池谷 潤、岡崎 進、小関富美江、
 木村美登里、平井 茜、堀 英司、山崎善明
 財政局長：池谷 潤
 事務局長：河野眞明
 事務局次長：山崎善明(兼)
 監査役：小保方則充

今回の総会をもって、副会長の小森伸二さんが退任となり、挨拶をしました。

また、14年間専従職員として事務局実務全般を担ってきた小関富美江さんが退任することになり、有志から花束が贈られ、労をねぎらいました。

小関さんは引き続き副会長として活動します。

午後は拡大運営委員会の位置づけで、地域交流として地域連協の活動の様子、地域の課題などについて以下のようなテーマで3つのグループセッションで議論をしました。

<グループセッション交流テーマ> (1時間程度)

- 2021年度を振り返って(コロナ禍での活動)
- 市連協や保護者会活動の様子
- 行政との連携
- 利用定員の考え方(6月運営委員会より)など

22人が参加し、充実した議論が交わされました。

無事総会を終え、神奈川県内の学童保育の充実をめざして、これからの活動方針を具体化し、学童保育をよくしてゆく努力を、みんなで積み上げて行きましょう。



第47回全国学童保育指導員学校・南関東会場

第47回全国学童保育指導員学校・南関東会場（以下、「南関東」）は、引き続き新型コロナウイルスの感染症の影響下にあり、6月5日（日）にオンラインで開催しました。全体として18都県より563人が参加し、神奈川県内からは10市より185人が参加し学びあいました。（人数は暫定値）

全体講演は、初めての試みとしてパネルディスカッションを行いました。「今大切にしたい学童保育の“なかま”～つながる・つなげる 子どもたちが安心してあそび、育ちあうために～」と題し、コーディネーターは東京都文京区指導員の高橋誠さん。パネラーは飛鳥井祐貴さん（神奈川県横須賀市指導員）、小野さとみさん（東京都町田市指導員）、後藤隆章さん（静岡県富士市保護者）が登壇し、コロナ禍で感じた不安や課題、乗り越えるための工夫など現場の声を、それぞれの地域、立場からの経験など、お話がありました。参加者からは「3名のパネラーの方々のお話をお聞きし、指導員も保護者もコロナ禍という不安な状況下で悩みながらも、今出来ることを模索し、なかまと情報を共有、交換することで乗り越えることができたのではないかと思います。」「コロナ前の学童保育がどんなものだったかを、知らなくてたくさん勉強になりました。」「コロナ禍の保育しか知らなかったので、以前との違いから大切にすべきことを学ぶことができてよかった。」「パネラーの方がコロナ禍の学童保育をどのように見つめていたのか、お聞きすることができて大変興味深かったです。」などの感想が寄せられました。

また、午後の講座は、基礎講座（3）、実践講座（4）、理論講座（2）、特別講座（1）の10講座を設けました。神奈川県からは講師として、第3講座「子どもを理解するための日々の記録」は横須賀市の飛鳥井さん、第4講座「学童保育の生活とあそび」は平塚市の内海さん、第6講座「学童保育における安全を考える」は横浜市の八木さんが担当しました。どの講座も「参加してよかった」「勉強になった」「また参加したい」という声が出されています。

また、「運営する方も、受講する方もオンラインに慣れて来たと思います。今後もこの様な形で運営してほしいです。」という意見がある一方、「今後、コロナ感染症が落ち着いたら、他の育成クラブの方々と実際にお会いして、意見交換などができたら良い」という意見も出されました。次回（2023年度・第48回）は神奈川県連協が事務局を担って準備を進めます。「全国学童保育指導員学校」は南関東会場のほかに北海道や西日本など10会場で開催されています。全国どこの会場でも参加できるオンラインの便利さも残しながら、対面での意見交換もできるよう探っていきたいと考えています。

県連協 2022年度秋の学習会のお知らせ（オンライン併用）

「学童保育のそもそも」を考える（仮）

～みんなで確かめ合う「私たちが望む学童保育とは」～

講師：未定（・・・）

日時：2022年10月10日（月・祝） 13時30分～16時00分

会場：横浜市健康福祉総合センター8階 大会議室8F（JR「桜木町」駅下車約3分）

参加費：1,000円/人

2015年からの学童保育は「子ども・子育て支援新制度」によって子ども・子育て支援事業のひとつに位置付けられ国の制度となりました。厚生労働省が示した「省令基準」を受けて各自治体で学童保育の最低基準を定める条例が制定され、厚生労働省が発表した「運営指針」には、放課後児童クラブの「全国的な標準仕様」として、学童保育の有りがたが記されました。その一方で届け出れば誰でも運営ができることになり、学習塾など、およそ私たちが望む学童保育とは程遠い事業が「学童保育」を名乗るケースも増えてきました。今一度、私たちはどんな学童保育を望んできたのか学童保育の原点に返って学びあうことが必要ではないでしょうか。

参加のお申し込み（オンライン参加あり）・お問い合わせは県連協（kana_ken@outlook.com）ま

私のおすすめ『日本の学童ほいく』

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。



6月は相模原市安西さんからおすすめをいただきました。

自分はクラブを3箇所運営していて、子どもが（計）80人います。

2022年6月号27頁「子どもの生活を守る指導員の連携・協力・学びあいを」の内容が気になりました。

子どもを見るのに、どのように連携するか、出されている例を読んで、これができるならよいと思うけれども、100%できているわけではないです。

また、29頁に書かれている課題に共感しました。

パート職員についての課題はまさにその通り。これから考えていきたいです。

他クラブ、他地域の意見を聴くことで、現場に活かせると思っています。

そして7月は横須賀連協の飛鳥井さんからのおすすめです。〔22年7月号54頁より〕

実践ノートに岩戸大矢部学童クラブの指導員である加藤利江さんの実践記事が掲載されました。

「新型コロナウイルス感染症」拡大にともなう学校の「臨時休業」期間が終了後、学童保育を休みがちになった子どもたち。指導員はどんな思いを持って関わってきたのか、何ができるのか……

あらためて振り返っています。記事の中では、今回、数名の子どもとのかかわりを通じて指導員間で「子どもたちへ関わっていくこと」の確認を深めて、意識的に声を掛け合うことの大切さも感じました。自分が関わるうえでもほかの指導員からも情報や意見をもらうことで、保護者と話をするときに深く考えた自分の思いを伝えることができるのだと感じました。と実践を綴っています。是非、参考にしてください。

2021年7月号～8月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2022年7月号> 特集「子育ての仲間と共に一学童保育の保護者会・父母会」

📖 実践ノート「学童保育を休みがちな子どもとのかかわりを考える」② 加藤利江さん〔横須賀市指導員〕

◆ 出会い集い父母会「心意気と助け合いを力に、これからも楽しい父母会を！」 塚原良輔さん〔横浜市保護者〕

<2022年8月号> 特集 共に学び、共に歩む 一みんなでつくる「学童保育連絡協議会」

🏠 グラビア 平塚市旭学童保育会第1

◆ 特集「多くの出会いと学びが教えてくれたこと」 石川 聡美さん〔横浜市保護者〕

■ 子どものひろば 風真さん〔横浜市6年生〕

📖 仕事職場のいま 「『安心して住みつづけられる地域づくり』の一翼を担うことを願って」

平元 雄大さん〔逗子市保護者〕

◆ 読者のひろば 「今日もがんばって」 鈴木千鶴子さん〔横須賀市指導員〕

あなたも読んでみませんか？

月刊『日本の学童ほいく』

全国連協が作る、日本で唯一の学童保育専門誌

定価 391 円/冊

購読のお申込み、見本誌のお問合せは

全国連協または神奈川県連協まで

<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/hoikushi/index.html?20220406> (全国連協『日本の学童ほいく』申込ページ)



3つの役に立つ

1. 働きながらの子育てに！
2. 指導員の実践（生活づくり）に！
3. 保護者と指導員の共感づくりに！

保護者会や指導員の打合せなど、様々な場面で活用されています。

まずは1冊手に取って読んでみませんか？

見本誌もありますので、お問合せください。

活動報告(2022年6月～2022年7月の主な活動報告)

6月26日(日)	第47回県連協総会	他 第1木曜日 定例運営委員会を開催
6月27日(月)	7月度事務局会議	
6月30日(木)	7月度役員会	
7月19日(火)	公明党ヒヤリング	
7月25日(月)	立憲民主党ヒヤリング	
7月25日(月)	8月度事務局会議	
7月28日(木)	8月度役員会	
7月31日(日)	県民連、夏季討論集会	

♪ 海老名市連協だより ♪

今年度の海老名市連協は、年度当初に連協を脱退する学童が複数ありました。加盟数が全学童の半数を下回るも、担当課は市連協の存在を軽視せず、よく意見を聞いてくれます。ですが、実際の加盟数の減少は連協の活動・存在の意義に少なからず影響があり、これからの課題となっています。

現在の活動としては、横須賀の永松先生に支援員研修を依頼し、一年にわたり複数回の研修を行います。

また、市の農政課とコラボをし、市内の畑の農作物収穫を、学童児童にやらせてもらえるという企画も行いました（ジャガイモ・大根・枝豆の収穫が既に体験できました）。

市内の学童同士でも2年ぶりに顔を合わせての交流会が開催できました。

少しずつですが、以前のような活動が出来るようになればいいなと思います。



10月号の「地域連協だより」は綾瀬市連協の予定です。
お楽しみに！

神奈川県学童保育連絡協議会HP
(<https://kanaken.onushi.com/>)



<これからの主な予定>

- 8月8日(月) 県政会ヒヤリング（県庁新庁舎）
- 8月20日(土) 19:30～21:30 全国研実行委員会③（オンライン併用）
- 9月7日(水) かな研実行委員会 第1回
- 10月10日(日) 秋の学習会（オンライン併用）
- 10月29日(土)～30日(日) 第57回全国学童保育研究集会（オンライン開催）
- 1月15日(日) 新春会長会 「日本の学童ほいく」誌普及推進会議
- 2月12日(日) 第46回神奈川県学童保育研究集会（通称「かな研」）

*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会の前の週の木曜日に実施しています。
また、2月12日の「かな研」に向け、実行委員会を開催し準備を進めます。